

# あさ吉夜話

■ 其の十

## — 三十間堀川 —

桂あさ吉です。今回のテーマは「三十間堀川」。港区福崎の臨海地区を流れる運河です。天保山運河に連絡して、尻無川と安治川に通じています。文政・天保年間の開削といわれ、幅が三十間あったところから三十間堀と呼ばれるようになりました。一間が約1.8メートルですから約54メートルの幅です。

この「間」とか「尺」とか「寸」は、今でも職人の方は使いますし、着物の寸法を測る時もそうです。古典落語の世界にはもちろんメートルもセンチメートルもできません。寸・尺・間で。こっちの方が日本人に合っていて便利なのかもしれません。

定吉 — お父ちゃん、ちょっとこの着物小さくなってきた。

父 — ほんまやなあ、丈も袖もつんつるてんやなあ。

おまえ背が伸びたんちゃうか？ちょっとその柱の所に立ってみい。うわー、この前測った時より二寸五分も伸びてるわ。

定吉 — やったあー、大きくなった！

父 — お母さん、ちょっとこの着物を直してあげて。

母 — はいはいわかりました。すぐにやってあげるわ。

定吉 — お母ちゃんも背が伸びたんちゃう？着物がちょっと短いで。

父 — 定吉、お母さんは、おなかが出てきただけや！

母 — …。



おあとがよろしいようで。